

日本化粧品学会

第38回 教育セミナー プログラム

ドライスキンのサイエンス ～原点から最前線まで～

ご挨拶

今年度から、帝京大学皮膚科主任教授渡辺晋一先生のあとを受け、日本化粧品学会の学術委員会委員長を拝命いたしました東京通信皮膚科の江藤でございます。昨年は、前委員長渡辺先生を中心とした委員会での発案で「シワのサイエンス ー成因から改善アプローチまでー」というタイトルで「シワ」についてじっくりと勉強していただきました。今年は新しい委員会メンバーで議論した結果、「ドライスキン」をテーマにすることにいたしました。

私は、アトピー性皮膚炎の臨床を専門にしていますが、その治療においては、ドライスキン対策がとても重要な位置を占めています。かつては、アトピー性皮膚炎は代表的なアレルギー疾患の1つとして(今でもそうですが)位置づけられ、原因・悪化因子の検索・対策が、治療の中心でした。20年以上前、現在、日本化粧品学会の理事長である川島眞先生が、アトピー性皮膚炎を「アレルギー疾患」だけでなく「皮膚バリア病」としてとらえるべきと提唱され、ドライスキン対策が脚光を浴びましたが、20年経過し、まだまだ「アレルギー疾患」の立場からのみ治療を推進する医師がいるのは(脱ステロイド、脱保湿派)、悩ましい限りです。ステロイド外用薬を最小限使用にとどめることのできるスーパーモイスタライザーは、日本化粧品学会から生まれてくるものと信じて止みません。

このセミナーでは、そのような期待を込めて、まずは、50年前からこの領域のエキスパートとして我々を指導してきた下さった東北大学医学部名誉教授の田上八朗先生にドライスキンサイエンスの「温故知新」を語っていただきます。2番手の講師としては、最先端の角層サイエンスの第1人者名古屋大皮膚科の秋山教授に「角層の基礎知見 up-to-date」をサマライズしていただきます。3番手の先生は、生物学的に非常に興味のある角層の進化について、「皮膚の進化ー水中から陸へー」というタイトルで慈恵医大解剖学教室の岡部先生にお話しいただきます。さらには、実際の日常でのドライスキン対策の基礎知識としてぜひ知っていただきたい内容として、3つのテーマを用意いたしました。まずは、「ドライスキンとかゆみ」に関して順天堂の高森先生に概説していただき、さらに化粧品学会の研究者を代表して、「赤ちゃんの肌の研究」の成果を花王(株)生物化学研究所の宮内先生にお話しいただきます。最後は、「外用剤適正使用の問題点」としてQ & A形式で、東京通信病院の薬剤部副部長であり、外用剤のエキスパートとして活躍中の大谷先生にお話しいただくことにしています。是非この機会にドライスキンサイエンスの奥深さを堪能していただければと切望しております。

学術委員長 江藤隆史

開催日：2013年11月22日(金)

会場：ヤクルトホール

*アクセスは最終ページの地図をご参照ください

〒105-8660 東京都港区東新橋 1-1-19 (TEL.03-3574-7255)

開場：9:30 開演：10:00

参加費：会員 15,000円 (予約 13,000円)

非会員 20,000円 (予約 18,000円)

学生 2,000円 (当日のみ・要旨集代含・要学生証提示)

* ご所属が賛助会員の場合、個人会員と同じく15,000円(事前予約13,000円)でご参加頂けます。

* 参加費には要旨集代が含まれています。

日本香粧品学会 第38回教育セミナー プログラム

10:00～10:05 開会挨拶 委員長 江藤 隆史 (東京通信病院)

10:05～10:55 座長 正木 仁 (東京工科大)

1. ドライスキンへのアプローチ～温故知新～
田上 八朗 (東北大学)

10:55～11:45 座長 林 伸和 (虎の門病院)

2. 皮膚バリアの基礎知見 up-to-date
秋山 真志 (名古屋大学大学院医学系研究科皮膚病態学分野)

11:45～13:15 — 昼休み (参加費に弁当代は含まれません) —

13:15～14:05 座長 菅沼 薫 (エフシージー総研)

3. 皮膚の進化～水中から陸へ～
岡部 正隆 (東京慈恵会医科大学 解剖学講座)

14:05～14:55 座長 堤 康央 (大阪大)

4. ドライスキンとかゆみ
高森 建二 (順天堂大学医学部附属浦安病院 皮膚科/
順天堂大学大学院 環境医学研究所)

14:55～15:10 — 休憩 —

15:10～16:00 座長 翠川 辰行 (ライオン)

5. 乳幼児の皮膚を観察する～皮膚はどのように成長するのか～
宮内 勇貴 (花王株式会社 生物科学研究所)

16:00～16:50 座長 増永 卓司 (コーセー)

6. 外用剤の適正使用の問題点～保湿剤を中心として～
大谷 道輝 (東京通信病院 薬剤部)

16:50～16:55 閉会挨拶 副委員長 松本 克夫 (ポーラ)

ドライスキンへのアプローチ～温故知新～

[田上 八朗先生]

昔から冬の皮膚の乾燥やヒビ、アカギレは存在していても、研究手段がありませんでした。三十数年前、私達が生体で角層水分含有状態を測定する方法を開発して、研究は進みだしました。社会的には室内暖房が普及し、老人やアトピー性皮膚炎、腎不全、糖尿病などの患者が増加し、それぞれの乾燥皮膚の研究とともに、科学的に有効性が確かめられた保湿製剤が次々と出現しています。約五十年に近い皮膚科医の経験から、これらを振り返ってみようと思います。

角層バリアの基礎知見 up-to-date

[秋山 真志先生]

皮膚の持っている働きのなかで、最も大切なものの一つに、バリア機能があります。この皮膚のバリア機能の要が、角層バリアです。角層バリアは、外界からの異物の侵入を防ぎ、かつ、皮膚の水分量を保つという2つの働きをしています。この角層バリアがうまく働かなくなると、乾燥肌やアトピー性皮膚炎から食物アレルギーまで、さまざまな病気の発病のきっかけになります。

皮膚の進化～水中から陸へ～

[岡部 正隆先生]

今からおおよそ4億年前、魚のような形をした我々の祖先はついに水中から陸上に進出しました。水中から陸上という大きな環境変化に適応するために、えら呼吸から肺呼吸への転換、頑丈な四肢や、ミネラルや水分を保持する機能の獲得などを達成しなければなりません。このセミナーでは、我々ヒトを含む陸上脊椎動物(四肢動物)の起源のお話と、乾燥と紫外線への対策として皮膚がどのように進化してきたかについてご紹介いたします。

ドライスキンとかゆみ

[高森 建二先生]

ドライスキンの特徴として皮膚の知覚過敏に由来するかゆみがある。かゆみにはヒスタミン依存性のかゆみと非依存性のかゆみがあり、ドライスキンに伴うかゆみの多くは後者に属する難治性のかゆみである。ヒスタミン非依存性のかゆみの原因には多くの因子が関与しており、その1つに神経線維の表皮内侵入、増生に伴うかゆみ閾値の低下がある。神経線維の表皮内侵入はケラチノサイトの産生する軸策ガイドランス分子の発現バランスと基底膜を分解するプロテナーゼにより調節されている。本講演では難治性かゆみの原因の1つである神経線維の表皮内侵入メカニズムとその対策について紹介する。

乳幼児の皮膚を観察する～皮膚はどのように成長するのか～

[宮内 勇貴先生]

理想の肌、憧れる肌とはどんな肌ですか？ この問いに「赤ちゃんの肌」と答える人がいらっしゃいます。しかしながら、ある調査において乳児の肌の乾燥防止対策として、「スキンケアをしています」とお答えになるお母様が、60%以上いらっしゃるにも関わらず、皮膚科医師に伺うと実際には、乳幼児の乾燥肌が年々増加しているという実感を持っていらっしゃるそうです。そもそも「赤ちゃんの肌」とはどんな肌をしているのでしょうか？ こんな疑問から赤ちゃんの肌の観察を始めました。皆様と共有させていただきますお時間の中で、これまでに取り組んでまいりました皮膚観察の知見をご紹介させていただきますと思います。

外用剤適正使用の問題点

[大谷 道輝先生]

保湿剤をはじめとした軟膏やクリームは塗布回数、塗布時期、塗布量および塗布方法など医療用医薬品添付文書においても曖昧な記載が多く、適正使用のためのエビデンスが少ないのが現状です。今回、外用剤の適正使用に関して当院で検討結果を中心に紹介します。

参加申込方法

日本化粧品学会 第38回教育セミナー

参加申込事前予約締切：2013年10月17日（木）

学会ホームページ(<http://www.jcss.jp/>)にて

8月5日（月）よりWeb受付開始

- * 10月18日（金）以降は当日受付でお申込みください。
- * 予約申込で入金を確認された方には参加証及び要旨集を11月上旬に送付する予定です。
- * 一旦払い込まれた予約参加費は払い戻しできませんのでご注意ください。

連絡先：

日本化粧品学会 教育セミナー事務局
〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5
アカデミーセンター

TEL. 03-5389-6496

FAX. 03-3368-2827

E-mail. jcs-semi@bunken.co.jp

■ ヤクルトホールへのアクセスマップ



- JR 新橋駅「銀座口」より徒歩3分
- 都営浅草線 新橋駅「汐留1番出口」より徒歩1分
- 新交通ゆりかもめ 新橋駅 徒歩3分
- 東京メトロ銀座線 新橋駅「2番出口」より徒歩2分
- 都営大江戸線 汐留駅 徒歩5分